

【日常英語が話せるまでの7段階】

今日は、日常英語が不自由なくできるまでに、
私が通ってきた各段階について、書いてみます。

もちろん、全員に当てはまるわけではないですが、
もしあなたが、自分がどのくらい英語が話せるのかを
チェックしてみたいと思ったら、ぜひ、読み進めてください。

私が英語を不自由なく話せるようになるまで、
大きく7段階あると思っています。

【Level 1】英会話が全く出来ない段階

この段階は、まさに英語恐怖症の時期です。

自分の言いたいことが、英語で
まったく出てこない段階です。

学校では文法を学習していたのに、
スピーキングになると、まったく別言語のように感じ、
外国人がいても、極力、話しかけられないことを願うことが多い段階です。

この段階は、私は中学の時、特に感じましたね。
この段階にいる方は、けっこう多いと思います。

やはり、日本で生きていく上では、
英語は、緊急な課題ではないことが多いですね。

ただ、一步日本を出ると、そこは、やはり日常的に英語が
飛び交う世界が待っています。

この段階にいる方へのアドバイスは、

まずは、英語に対して興味を持つというより、
英語に関係する「自分の興味のあるもの」を通して、
英語に、少し向き合ってみることをおすすめします。

例えば、洋楽や洋画など、
自分の好きなことに対しては、
やはり自然と興味がわきますし、
もっと知りたいと思うものですよね。

また、海外旅行が好きな方は、
日本語しか使わない海外旅行よりも、
Hello の一言でも、現地の人に声をかけて見てください。

彼れも、フランクリーに応えてくれます。

その後、現地の人ともっと話してみたいという気持ちが
湧いてきますので、きっかけとしては、いいと思いますよ。

【Level 2】 英語が少し聞き取れるようになる段階

この段階は、スピーキングというよりも、
リスニングが少しずつできてくる段階です。

私も、この段階は、高校生の時、経験しました。

毎日、NHK の英会話のラジオを聞いていましたので、
全文は聞き取れなくても、単語を拾うことや、
簡単な英語なら、おそらくこのような事を
言っているのかなと想像が働く段階です。

ただ、やはり、スピーキングになると、
Level1 と大差はなく、
まだまだ英語を話す段階にはありません。

聞こえ始めたのに、話せないという葛藤を
経験するのがこの段階です。

もちろん、外国人と話すという勇気や自信もなかったのも、
かなり落ち込むことも多かったです。

この段階にいる方へのアドバイスは、

まずは、リスニングに力を入れてみることを
お勧めします。

それは、なぜかというと、
これは私が、今でもネイティブと話す時に
実践していることですが、

リスニング力があるというのは、
将来的に、必ず、スピーキング力向上に直結します。

機会があれば、具体的にお話したいと思っていますが、
英会話の上達の方法の一つは、

ネイティブの言っている自然な英語を、
パクるという方法があります。

自分なら、英語で話す時このように言うけど、
ネイティブは全く違う英語表現をしているということを、
比較していくことで、自分の英語はどんどん変化していきます。

その発見のもとにあるのは、
ネイティブの英語を聞き取るリスニング力です。

だからこそ、初期の段階で、
将来のスピーキング力向上のためにも、
リスニング力の基礎を作ることを、おすすめします。

これは、私が自信を持ってお勧めできる方法です。

今、話せなくても、ここはじっと耐えて、
リスニング力の強化を、目標にしてみてください。

今なら、ラジオでもテレビでも、ネットでも、
英語を聞く機会は様々、ありますからね。

【Level3】 カタコトレベル

この段階は、カタコトながら、英語が話せる状態です。

もちろん、流暢に話すには、程遠いですが、
外国人と会話をするのが、楽しみに感じてくる段階です。
これは、私は大学時代に経験しました。

自分が学んだことを、口に出して、英語が通じた時、
とても嬉しかったのを覚えています。
もっと、英語ができるようになりたいと、
英語に対して積極的になってくるのも、この段階です。

この段階を経験すると、その後の英語上達は
かなりの確率で、成長を続けていきます。

この段階にいる方は、もしも外国人と話す機会があれば、
このような言い方を試してみようと、考え始めます。

おそらく、「英語を話す」ということに関しては
この時期が一番、楽しいかもしれません。

ただ、次の段階に行くのは、かなりの努力を必要とします。

なぜかという、この段階は、多くの場合、
日本語の単語に囚われた英語を話そうとしているからです。

自分が知っている英単語が含まれた英語ならば話せるけど
いざ、知らない単語が出てくると会話がフリーズします。

この壁を乗り越えるには、英語の発想法とテクニックを
知る必要があります。（この部分については、レッスンで詳しく説明します）

このことが結果的に、会話の中に、タイムラグを生じさせます。

そのため、「自分は外国人を待たせている」という
変な罪悪感を持ちます。

この段階にいる方へのアドバイスは、
まず、英会話は、試験ではなく、
会話であることをしっかり意識することです。

私は、実は、このような沈黙がおきる状況で、
外国人はどのように感じているかを聞いたことがあります。

日本人が、英語が流暢に出てこず、沈黙の時間がある時、
彼らは、別に完璧な英語での返答など、期待していないことが多いです。

それは、彼らも、同じように他言語を学び、
それを口に出す難しさを十分に知っているからです。

それよりも、彼らは、
コミュニケーションそれ自体を求めています。
つまり、単語でもいいので、意思表示をすることの方が圧倒的に大切です。
そうすれば、彼らも、あなたが何を言いたいのか、探り始めることができます。

私達が、外国人と日本語で話す時のことを思い出して見て下さい。
日本語が完璧にできないという理由で、
ずーと沈黙している外国人って、あまり会わないですよ。

それよりも、単語でもいいので意思表示し、
自分は何を思っているかを表現していることの方が多いです。

英語を母国語にしない日本人も、同じように、
まず、英会話とは、意思疎通のためのツールにすぎないことを、
しっかり意識し、けして萎縮することなく、表現してみることが大事です。
そうすることで、自分が言いたかった英語表現を、
ネイティブが教えてくれることもあるはずです。
その時、生きた英語の学習が始まります。

この段階は、純日本人ならば、誰しも必ず通る道です。
この長く果てしないトンネルを超えた時、
次の段階 Level4 が見えてきます。

【Level 4】光と闇の共存段階

この段階で、やっと、自分の言いたいことの 60%以上は
言えているかなと感じる段階です。

Level3 の後に見える景色は、この段階です。

つまり、英会話の場面で、やっと、半分以上は、
なんとなく自分の言いたい事が言えているかなと感じる段階です。

この段階では、自分の英会話力に対して、自信が出てきています。
明らかに、周りを見渡しても、自分の英会話力との差が見えています。

ですので、非常に嬉しく感じると同時に、恥ずかしさも感じる時期です。

その理由は、周りを見渡すと、

自分の方が、英語ができるという自覚はあるものの、
より流暢に話している日本人がいるのがわかり、
明らかに、英語のレベルの違いを感じてしまいます。

英語ができるようになったことで、
「自分はまだまだだ」ということが、
客観的に分かってしまうんです。

これは、私が、20代の時に、特に、海外留学の最終段階や、
実際に海外で仕事をし始めた時に、強く感じました。

周りを見ると、自分より流暢に話している日本人が沢山いて、
どうしたら、そのレベルに行けるか、すごくもんもんとしていたのを覚えています。

流暢な日本人の前では、英語を極力話さず、
外国人と二人になった時に話すということをしていました。

この葛藤は、将来、あなたにも訪れると思います。

ただ、この段階での対応次第で、
次のステップに進めるか、それとも、現状のレベルに留まってしまうか、
非常に大事な分かれ道になります。

なぜかという、次なる段階は、自分の英語に不動の自信がつき、
周りからどう見られているかなど、気にしなくなる段階がくるからです。

この段階にいる方に対するアドバイスは、1点です。

それは、自分は、誰に対してコミュニケーションをとっているかを、
再確認することです。

自分より流暢に英語を話す人の前で、会話しなければならない時、
おそらく、あなたは、相手に対して会話をしていないと思います。
その流暢な日本人が、どのように自分の英語を聞いているのか・・・
このようなことが気になって、非常に不自然な英語を話していると思います。

つまり、自分のことを考えながら会話をしているという状態です。
ベクトルが相手に向いていないのです。

ただ、今、流暢に話せる日本人も、この段階は経てきています。

その時の気持ち、つまり、コミュニケーションのベクトルを、
相手に向けるか、自分に向けるかで、大きな大きな違いを生みます。

私の場合、日本人や外国人とミーティングをする機会が多いので、
最初は、本当にこの羞恥心との戦いで、かなりの悩み、葛藤をしていましたね。

だからこそ、もしあなたがこの段階にいるなら、
自分の英語がどのように聞こえているかなど、一切に気にせず、
全力でコミュニケーションを取ることにのみ、注力したほうがいいです。

その時、英語に魂がこもりだし、
それと同時に、英語も飛躍的な速度で、上達して行きます。

【Level 5】 静かな不動の自信がつく段階

この段階で、初めて日常会話が、不自由なく話せるという段階です。
ネイティブの言っていることも、ほぼ100%理解しています。

自分の言いたいことも、十分相手に伝わります。
会話の中で、知らない単語などもでてきますが、
この段階では、その意味を質問することに、

一切の躊躇がない段階です。

自分より流暢な人が周りにいても、そんなことはもう気になりません。
英会話をする際、会話に集中しているので、一切、周りの目は気になりません。
この段階では、自分の英語力に対して、静かな不動の自信ができており、
けして英語ができることを、周りにひけらかすというような気持ちもおきません。

この段階は、自由にネイティブと意思疎通ができるので、
本当に充実した会話が展開しています。

外国人はこのように考えるのかとか、海外の文化など、
英語以外の発見が多くなり、気の許せる外国人の友達も出来てきます。

と同時に、自分が日本のことを知らないということを認識し、
日本人としてのアイデンティティを再確認するのもこの時期です。

この段階にいる方は、英語以外の分野で、
さらに研鑽していくことをお勧めします。

時に、海外で仕事をしていると、
「日本ではどうなの？」という質問が飛んできます。

その時、自分の国のことを知らないと、会話が続きません。

この時に、初めて、英語ができる人が、
すなわちグローバルな人ではないことに気づきます。

相手の文化や考えが理解でき、そして、自国のことも、
しっかりと伝えられる必要性を感じることを思います。

そして、英語が自由に話せるようになった先には、
実は次なる段階があります。

【Level 6】人種の壁を越える段階

この段階は、もはや英語でのコミュニケーションという、
言語的な壁はありません。

英語を話すなら、やはりネイティブがいいという

人種の区別はしなくなります。

どんな人種であろうが、等しく会話を楽しめ、

彼らの言っていることが理解でき、

また、自分の言いたいことも、深い議論を含め、言えようになっています。

外国人から相談されたり、また、自分も色々な相談を

英語で言えるようになっていきます。

あたかも、日本語で会話する時と同じように、

英語で考え、英語で話すというようなレベルに達しています。

時に、英語で会話する方が、楽に感じることもあります。

この段階での課題は、英語ではなく、人間力です。

つまり、周りの外国人と、価値を作り出していく段階です。

人種の壁を超え、同じ、地球市民として、

いかに、協力して、仕事やプロジェクトを進めていくか。

そのためには、英語ができるからということではなく、

自分自身の存在価値が、仕事を進めていくために必要になります。

1人の人間として、あなたとなら、一緒に何かをしてみたいと

思わせるものが必要になります。

そのためには、自分自身の人格や知識を深めていくと同時に、

人種に合わせた会話ができるようになってくると、

仕事が非常にスムーズに進むようになってきます。

もちろん人間なので、この人種は、このような性格と
ひとくくりには出来ませんが、Level5 で養った文化理解を、
人種ごとに上手に適応していけるようになると、
まさにグローバルな活躍が出来てきます。

その場所は、海外であることもありますし、
日本であれば、在日外国人と価値を創造していくことができます。

この段階においては、英語とは学ぶものではなく、
それを使って何かを創り出すツールとして活用しています。

この修練には終わりはないですが、この段階にくると、
世界規模で自分の仕事や人生を考えられるので、
活動の場所は、日本のみにこだわらず、選択肢は無限になります。

さて、次は、最終段階の Level7 について書きます。
私が考える、本当の意味で英語ができる人の特徴を結論として書いてみたいと思います。

【Level 7】 英語の可能性を提供できる段階

さて、いよいよ、「日常英語が自由に話せる段階」の
最終段階である 7 段階目について、現段階で私が考える所を書いてみたいと思います。

その前に、実は私は、学生時代、どちらかというと内気な性格だったんです。
その変化のきっかけになったのは、実は、英語そのものでした。
それは、大学時代に留学したオーストラリアで、ある日突然起きました。

大学 2 年生の春のことでした。初めて足を踏み入れたオーストラリアという大地。

すべてが不安でした。

言葉も外国人も自分の将来も。

ある日、ホームステイしていたホストファザーから、

ある提案を受けました。

「オーストラリアは、海がきれいで、ほとんどの国民がスキューバダイビングのライセンスを持っているので、あなたも、ぜひ、ここで取得してみたらどう？」

正直、最初は断ろうと思っていました。

だって、英語もまともに聞き取れないのに、

海の中に潜って、うまく操作できなかつたら命に関わると思ったので。

でも、その後、そのホストファザーから、ある言葉を聞かされました。

その言葉が、実は、私の人生を大きく変えました。

「あなたの前に2つの道があった場合、絶対に、困難な方を選びなさい」

ズシンと響きました。

私にとっては、いつものように、みんなとバーベキューをやって、

つたない英語で日常会話を覚え、それなりの思い出を胸に帰国することもできました。

でも、その時、人生の指針として、困難な方を選ぶ決意をしました。

スキューバダイビングの資格を取るには、学科と実践、両方をパスしなければなりません。

もちろん、英語で。

その時、もう必死で英語の講義を聞きました。

わからなかつたら、命に関わるので。

もちろん、それまでは、あまり自分から英語で質問なんかしませんでした、
自分でも驚くほど、わからないことは、全力で聞きまくりました。
自分の英語が完璧とか、文法的に間違っているとか、
そんなのどうでも良かった。

ただ、英語でスキューバライセンスを
取得するために、その１点に集中しました。

結果は
無事
一発合格。

初めて潜った海は、本当に別世界でした。
海の中なのに、涙が溢れてきました。

この経験から、私はひとつの真理を見つけました。
それは、
自分には、まだ見ぬ「新しい自分」がいる。

それまでの自己イメージは、過去の経験や経歴で、
自分を規定してただけで、実は、積極的で、
一生懸命頑張れる自分がそこにいました。

どうか、あなたにも知ってほしい。
今のあなたが、すべてではありません。
実は、あなたの知らない「あなた」が未来にはいます。

これまで私は、人生は、ゆっくり変わると思っていたが、

実は、人生は、ある日突然、あるきっかけで、突然変化します。

そのきっかけになるのは、私の場合、
英語でした。

英語を通して、本当に色々なものが変わりました。

- ・弱い自分から一歩踏み出す勇気を学びました。
- ・外国人の価値観を知ることによって、自分の人生計画が変わりました。
- ・英語というキーワードを通して、多くの人と縁が出来、夢ができました。

今の私の夢は、「英語」を通して、
人生を変えるきっかけを提供していくことです。

つまり、現段階の私が考える「日常英語が自由に話せる段階」の
最後の段階にあるものとは・・・

【英語の可能性を提供できる段階】

これこそが、私が考える Level 7 の段階です。

英語の先には、今の自分では想像すらできない、
様々なチャンス、出会いが待っています。
英語を学ぶ意義は、確かに存在し、
そして、あなたの人生を変える力があります。

私自身、まだまだ未熟ですが、少しでも多くの方に、
英語の可能性、そして、英語の先にある未来を
提供していきたいと思っています。

Cafetalk 英語講師 Kunihiro

【講師プロフィール】 <https://cafetalk.com/tutors/profile/?id=26111&lang=ja>